

東京大学大学院人文社会系研究科 次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣 帰国報告

2012年 4月 14日

1. 派遣生の基本情報

氏名: 宮下和大

所属(派遣時): 文学部言語文化学科現代文芸論専修課程4年

(現: 大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻現代文芸論専門分野修士課程1年)

派遣形態: 個人派遣

2. 研究課題名

ペルーにおけるインディヘニスモ文学の展開について ～アルゲダスを中心にして～

スペイン語訳: El desarrollo de la literatura indigenista en Perú (sobre Arguedas).

3. 派遣先での活動

(1) 派遣先の基本情報

国名: ペルー

都市名: リマ

研究機関:

カトリカ大学(Pontificia Universidad Católica del Perú)

カトリカ大学附属図書館(Bibliotecas de PUCP)

サン・マルコス大学附属図書館(Bibliotecas de UNMSN)

コンタクトをとった主な研究者:

カルメン・マリア・ピニジャ(カトリカ大学附属図書館ホセ・マリア・アルゲダス・コレクション所長)

(2) 派遣期間

出発日: 2012年 2月 21日

帰国日: 2012年 3月 31日

総日数: 40日間

4. 主な研究成果

(1) 計画の概要

ペルーにおけるインディヘニスモ文学(先住民復興主義文学)、特に作家ホセ・マリア・アルゲダス(1911-1969)を研究対象とする。研究者とのコンタクトをとると共に、大学附属図書館を利用し、ペルー国内ないしはラテンアメリカ諸国でのインディヘニスモ文学の展開について調査し、資料の収集を行う。平行してラテンアメリカ地域の研究を進める上で必須となるスペイン語の運用能力を研鑽する。

(2) 実際に達成された成果

資料の収集に関しては、昨 2011 年にホセ・マリア・アルゲダスの生誕百周年を記念して多くのアルゲダス研究が発表されたこともあり、派遣時には多数の新刊研究書が出版されていた。そのため図書館での一次

資料・二次資料調査に加えて新刊書の購入も多数となった。研究書に加えて、アンデス地域の主要な先住民言語の一つであるケチュア語の辞典及び学習書も購入した書籍に含まれており、この地域におけるインディヘニスモ文学の研究には有用なものといえる。また、カトリカ大学附属図書館のホセ・マリ・アルゲダス・コレクション所長であるカルメン・マリア・ピニジャ氏にはいくつもの研究の示唆をいただいた。小説作品の多くで舞台となっている町プキオについて彼が人類学的調査を行った論文、生前アルゲダスが書いた書簡の重要性などである。スペイン語運用能力の向上については、計画当初予定していた語学学校ではなく宿泊先の紹介を受けた家庭教師のもとで行った。一ヶ月程度の勉強で語学力が劇的に向上するなどということはなかったものの、口頭での表現や聴解の点である程度の前進は達成できたと思われる。

(3) 今後の研究展望

今回の派遣で入手した資料を基にしながら、過去の研究とともに最新の研究結果を把握し今後の研究に役立ててゆく。インディヘニスモ文学、とりわけアルゲダスの文学の読みは人類学・言語学などといった他分野に亘る知見が要求されることが再確認されたので、この点も深めていきたい。とりわけ、研究を行う上での基礎としてスペイン語を研鑽するとともに、先住民言語を学習しテキストの分析を行うことで、一般的にスペイン語で著される文学作品の中にこの言語の存在がいかなる形で影響しているか研究することを計画している。